

伝承の中に見る星

～思ったより脱線が多くなっちゃいました～

神戸大学天文研究会
宇宙科学班2回 比嘉
2020.09.13

それではまずは沖縄の基本情報から(?)

人口約150万人 (神戸市約152万人)

人口密度約636人/km² (神戸市2733人/km² 兵庫県650人/km²)

※沖縄県人口データ2020/04/01推計
兵庫県人口データ2020/01/01推計

県庁所在地 那覇市

気候区分 亜熱帯🌺

363の島からなっており、そのうち有人島は49。

県の木：リュウキュウマツ

県の花：デイゴ 鮮やかな赤い花です

県の鳥：ノグチゲラ キツツキのような鳥です

県の魚：タカサゴ (グルクン) 白身が美味しい魚です



▲デイゴ

では早速

クイズです！！

ウチナーグチでの「イユチャーブシ」は何座でしょう？

正解:さそり座

釣り針に見えるので「魚釣り星」
と呼ばれています。

では「ムリブシ」はある天体名ですがなんでしょう？

ヒント:おうし座にある天体です。

正解:すばる

たくさんの星が群れている様子から「群り星」
と呼ばれています。

他にも…

- ・ ニヌファブシ・・・北極星(子の方角の星)
- ・ カジブシ・・・南斗六星(舵星)
- ・ ニーヌファヌカジブシ、ナナツブシ・・・北斗七星
- ・ ミチブシ・・・オリオン座
- ・ シマヌフシ・・・フォーマルハウト(午の星)
- ・ シマヌチラー・・・ヒアデス星団(馬の顔)

沖縄の星にまつわる言い伝え

1. 北斗七星、北斗七星と南斗六星
2. 北極星
3. 月

の3つを順に紹介していきます！

1.北斗七星、北斗七星と南斗六星

1-1 北斗七星の由来 「天人女房」

～石垣市大浜の伝承例～

貧しい親子。子供が3歳の時に両親が他界。子供はお隣さんの下男となりせっせと働きながら成長。

ある日松の木の下で両親のことを思い出しばうっと立っていると女の人に話しかけられる。

女の人も男と同じ境遇にあり、結婚。(早い)
二人で一生懸命働き、生活にも子供にも恵まれ幸せな生活を送る。



ある日夫が借りていた着物の返済が済んでいないことを話したらところ
妻は夜、仕事部屋で姉妹で布を織り上げた。(鶴の恩返しみたい)

夫婦で夜空を眺めていると夫、七つ星のうち一番上の星が消えていることに気づく。
実はその星は妻で、夫にバレてしまったので天に帰らなければならない。

隠しておいた羽衣で子供と共に天に昇って行ってしまった。
人間と結婚し子供をもうけてしまったので二番目に降格。
そしてこれが北斗七星の二重星、ミザールとアルコル。





北斗七星の2番目の星に
大小二つの星が並んでいます

1-1 北斗七星の由来 「天人女房」

～渡嘉敷村の伝承例～

昔伊是名島に銘苺子という男がいた。ある日川原で美しい天女を見つけ、羽衣を掠め取り天女を妻にした。

子守唄の中で「母の羽衣はどこかな、栗蔵の下に隠してあるよ」と歌っているのを聞く。

羽衣を見つけ、天に帰ろうとするが子供と別れるのが辛く、行ったり来たりを繰り返した。

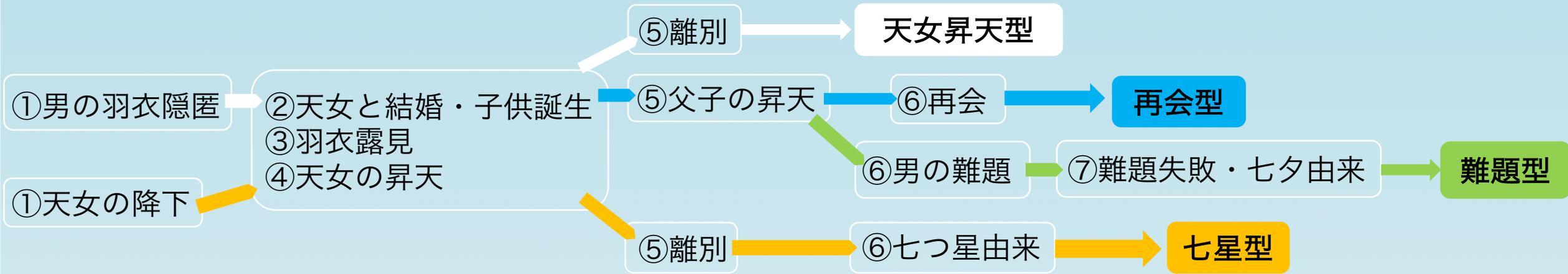
そうこうしているうちに子供達が起きて、飛んでいく母を呼び止めるも時すでに遅し。
「天のななつ星の二番目にある大きな星と小さな星が二つくっついている星を私と思え」
と言い残し天に昇って行った。

地上で妊娠していた子供が天で生まれたため二重星となった。

北斗七星の二重星を「子抱き星」と呼ぶそう！



日本の天人女房



奄美・沖縄地方の天人女房の大半は天女昇天型。
先ほどの伝承例は結末が七つ星の由来となっており少し異なるが、天女昇天型。

再会型は九州地方に多い。

七夕伝説は難題型

七星型は日本では沖縄県にのみ存在。東南アジア、中国南部などにも存在。

1-2 北斗七星と南斗六星 (米寿の由来)

～本島中部うるま市具志川の伝承例～

母と二人で暮らしている娘が水汲みに井戸に行くとそこで老人に何度も「もったいない子だね」と言われる。



家に帰り母にこのことを話すと、母が直接老人に理由を聞いてくることに。

老人によると娘は今年18歳になるのに、18歳の寿命しか与えられていない！

なんとか助けたい母親は、老人のアドバイスを受ける。

北の星の神と南の星の神が暮に夢中になっている隙に山猪のさしみの和物をそーっと置いてくる。



北の星の神と南の星の神がそれを食べ終わった後にお互いのもてなしかそうでないかを言い合っているところに娘の母親が「私が持ってきたものだ」と言う。

母親からかくかくしかじかを聞いた神々は刺身を食べてしまった以上願いを断るわけにはいかないと思う。

そして十八の上に八の字を書き足して娘の寿命を**88歳**に！

これで88歳にはトーカーチ(米寿)のお祝いを盛大にするようになったという。



脱線 長寿祝いについて

米寿や還暦などの賀寿は元々沖縄にはなかった。
その代わりにトウシビー祝い(生年祝い)が賀寿のような長寿祝い。(今でも残ってるよ！)

トウシビー(生年)	年祝い
<p>自分の生まれ年の干支が回ってくる年 13歳、25歳、37歳、49歳、61歳、73歳、85歳、97歳 61歳までのトウシビーは厄年とされ、 厄除として拝まれていた。 61歳以降は長寿をお祝いする意味が強くなる！</p>	<p>(13歳、15歳)、61歳、77歳、80歳、88歳、90歳、99歳 61歳以降のいわゆる賀寿は長寿祝い。厄年とは別。</p>

トウシビー祝いは公民館で合同で行われる地域も。
本州に倣い、賀寿の中でも特に88歳の米寿を盛大に祝う風習が根付いた。⇒トーカチユーエー

沖縄での長寿祝いはトウシビー+米寿
61歳、73歳、85歳、88歳、97歳

脱線 88歳のお祝い「トーカチユーエー」

沖縄に伝来してきたのは17世紀ごろ、薩摩から伝来したと言われている
「トーカチ」とは「斗掻」という意味 「ユーエー」は「お祝い」という意味
お祝いしにきたお客さんにトーカチを配ることから米寿に「トーカチ」という名前がついた
8升8合のお米をザルなどに入れトーカチを3本立てたものを飾る
お祝いされる人は黄色い紅型（できれば稲の絵が描かれているもの）を着る



▲トーカチを立てた飾り物



▲黄色い紅型を着ます

脱線 97歳のお祝い「カジマヤーユーエー」



カジマヤーは生年祝いの最後に当たり「人生が一回転して、子供に戻る年」という意味
風車がモチーフ

旧暦の9月7日にお祝いする

お祝いされる人は派手に飾られたオープンカーに乗り、町中をバレード
(地域外の人でも自由に見学できるので、タイミングが合ったら見てみると面白いかも)

女性は「アカジン」という打掛を羽織り、頭に赤の髪飾りをする

男性は赤or金の頭巾とちゃんちゃんこを羽織る

これらの衣装は地位によって着るものが決められた琉球王国時代において、国王並に華やかな衣装
⇒97歳まで生きるとは神様の力が働いたということで、存在が神に近いものとされたため

手にはかじまやー（風車）を持つ



←かじまやー



▲アカジンを羽織る(女性)



▲赤or金の頭巾と
ちゃんちゃんこ(男性)

脱線の脱線 13祝い

本州の「十三詣り」とは少し違う
お祝いの意味が強く、祝宴の座開きの定番「かぎやで風」を踊るほど
小学校の学校行事に組み込まれているところが多い

なぜお祝いが強い？



昔の沖縄の女性のほとんどは早婚。そのため13歳のトゥシビーが実家でできる最後のお祝い。
女の子は13歳で成人とみなされた。

⇒特に女子が盛大に祝われ、「女の子の行事」と呼ばれるほど



1.北斗七星、北斗七星と南斗六星

2.北極星

3.月

ウチナーグチで「ニヌファブシ」
…「子の方(ニヌファ)の星」

2 北極星の由来

～石垣市白保の伝承例～

働き者の弟と怠け者の兄を持つシングルマザーが重い病気になり、ついに亡くなってしまふ。
弟は悲しみに暮れる日々。そこに老婆が現れて「母に会わせてあげるから兄と一緒についてきて」と言う。

大きな川に連れられた二人は「向こう岸まで船を漕げば母に会える」と言われる。



川幅が広く、兄は途中で諦め船の中に寝転んでしまふ。それでも弟は諦めずに船を漕ぎ続ける。



しばらくした後、川の流れが急に速くなり船は滝に飲まれてしまふ。

もう駄目だ！と思った時、突然あの老婆が現れ弟を救い上げて天に昇っていく。

実はこの老婆は女神。そして弟は無事に母親に会うことができた。

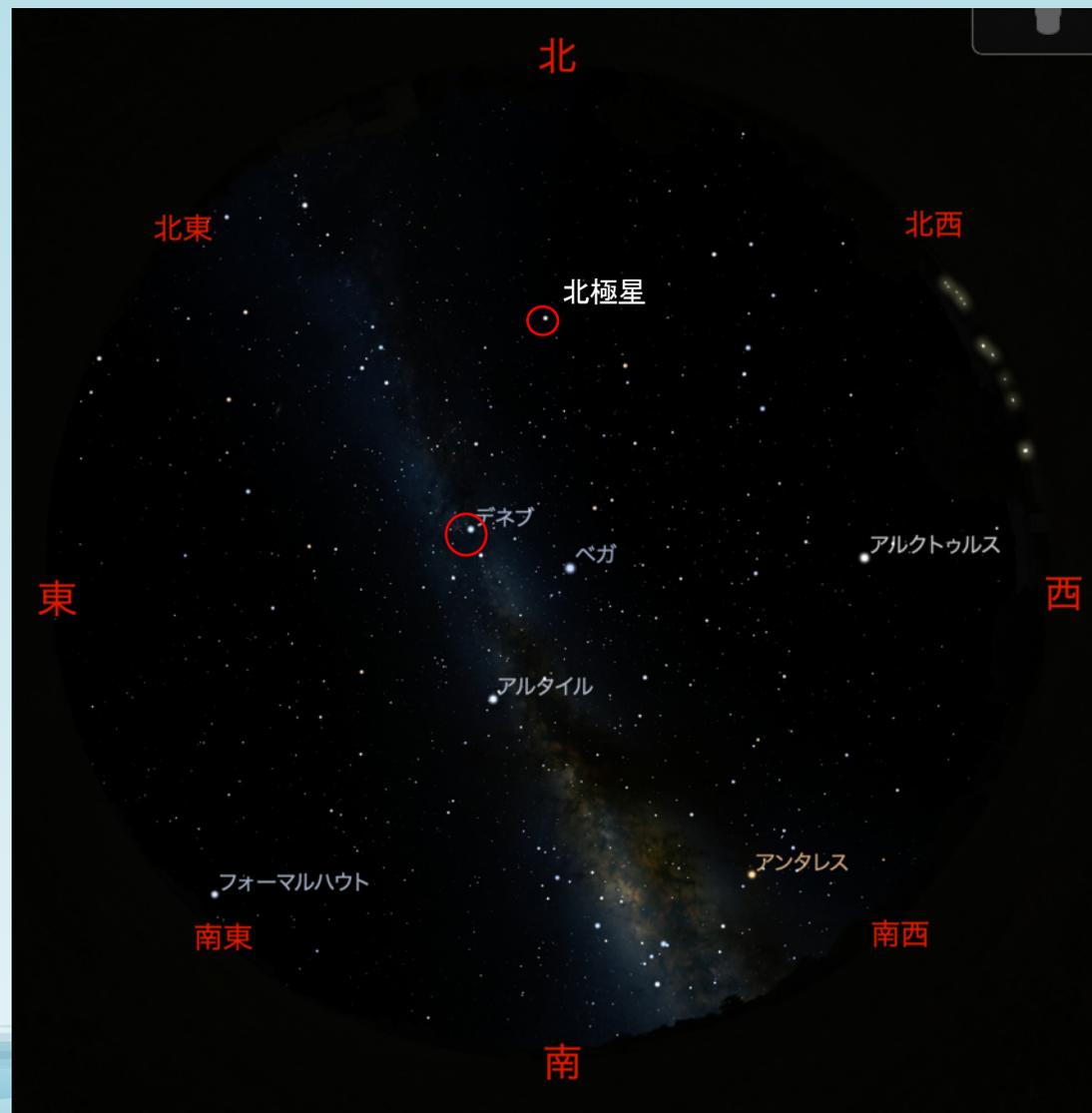


弟は「みんなの模範として、目標になりなさい」とのことで北極星に。
一方兄は「もう少し苦勞しなさい」と川の中に残されたデネブに。

北極星の由来でも、デネブの由来でもある。

2 北極星の由来

星図で見ると...
デネブ（兄）は
天の川の中に取り残されている



2 北極星の由来(アイヌの伝説)

「働き星・なまけ星」

貧しい母親と二人の息子が住んでいたが、母親は重い病気にかかって死ぬ。
兄弟は母親を戻してくれるように天の神様に祈ると、みすぼらしい姿のおばあさんが現れ
「私を舟に乗せて川の向こうまで渡してくれたら、お母さんに会わせてあげる」と言ったので
喜んで船を漕ぎ出す。

いくら漕いでも舟は向こう岸につかないので、兄は怒って櫂を放り投げて寝てしまうが
弟は母親に会いたい一心で舟を漕ぎ続ける。

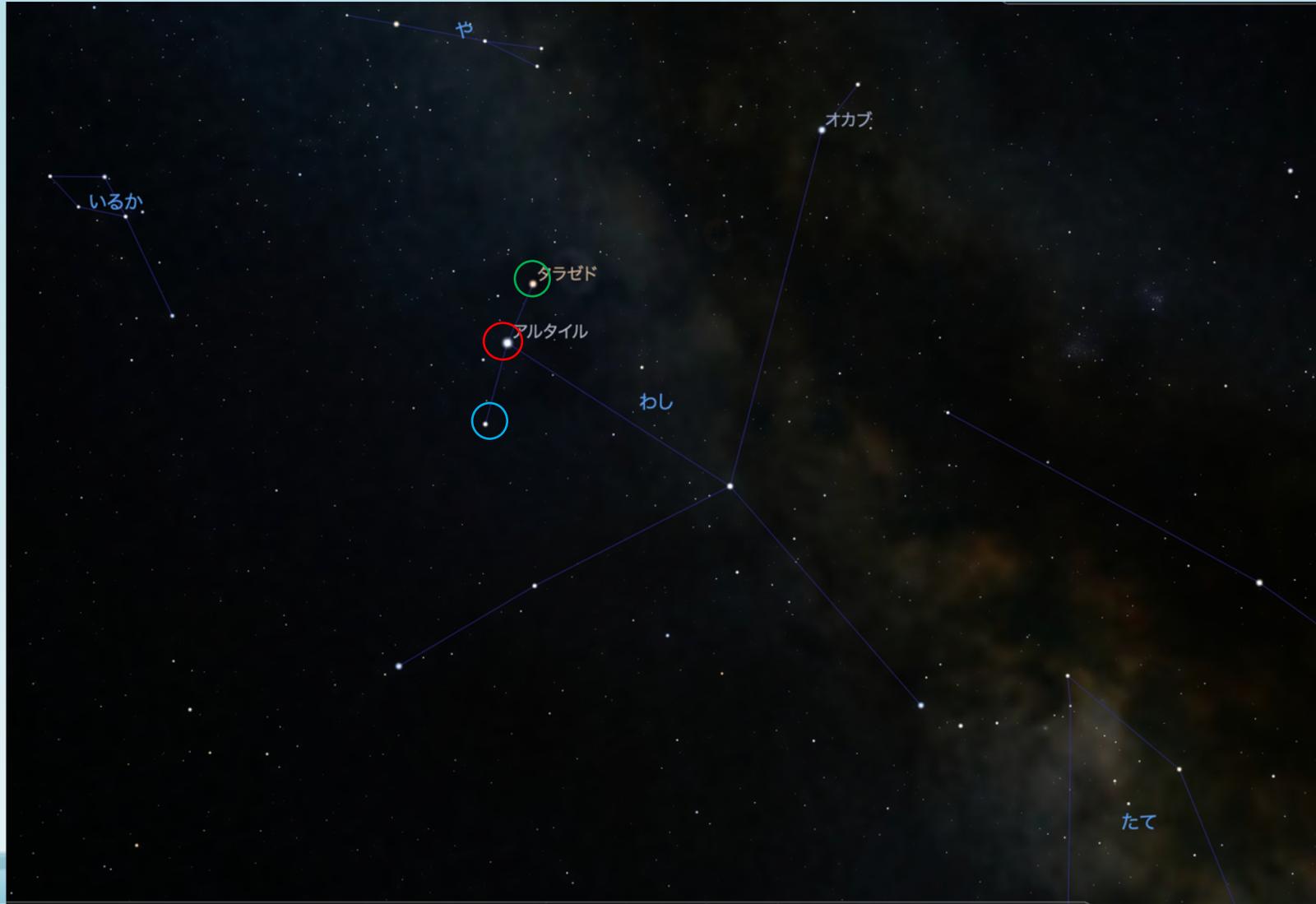
この様子を見ていたおばあさんは女神の姿になって、弟を抱いて天に昇っていく。
びっくりした兄は飛び起き、自分も連れて行ってと叫ぶが、船はどんどん流されて地獄へ落ちていく。

これが彦星とそれを挟む二つの星である。
⇒話の筋は似ているが、結末が石垣島での伝承と大きく異なる

アイヌではこれらの3つの星々を「ウナルペクサノチウ」(老婆を舟で渡す星)という。

2 北極星の由来(アイヌの伝説)

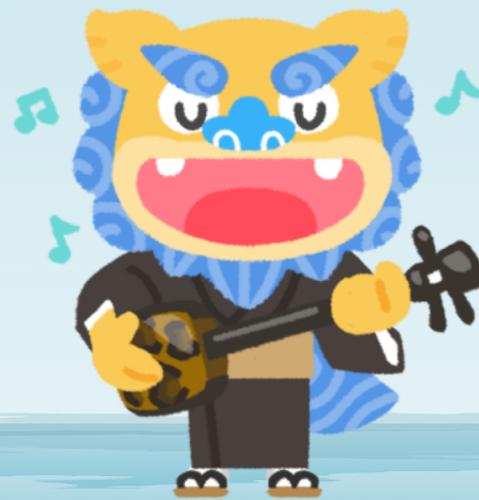
α 星:女神
 β 星:弟
 γ 星:兄



少し脱線 わらべ歌のなかの北極星

～ていんさぐの花～

夜走らす船や (夜中に航海する船は)
子ぬ方星 見当てい (北極星を目標にする)
我ん生ちえる親や (私を産んだ親は)
我んどう 目当てい (私の目標である)



1.北斗七星、北斗七星と南斗六星

2.北極星

3.月

3 月にまつわる民話

～石垣市に残る民話～



島中で大飢饉、病気の蔓延で多くの人々が死んだため満月の日に山に登り祈願するとお月様が妙薬を与えるから取りに来るように言う。



誰もいけないと悩んでいるところに頭に雲がつくような大男、アールパンナーが通りがかりその人に頼むことに。



アールパンナーは雲雀と鶉を連れて出かけた。



月についたが入り口の門番に入場を断られ、暴れたことで月の女神が仁王立ちのまま動けなくしてしまう
⇒これが月の中に見える影

3 月にまつわる民話

～石垣市に残る民話～

一方、雲雀と鶉は月の女神から不老不死の薬をもらって地球に帰ってきた。しかし、途中野苺がたくさん生えているところで遊んでいる隙にハブがやってきた。



びっくりして薬をこぼしてしまい、その時にハブの体に不老不死の薬がかかった
⇒ハブは脱皮して長生きできるようになった。

雲雀は怒ってハブを捕まえようとしたが、
逆に足を踏まれたため足が曲がってしまった。
(実際に雲雀の足は逆に曲がっているように見える)

鶉は逃げた時にハブに尻尾をちぎられてしまった。
(実際に鶉の尻尾は短い)

島の人々は待てど暮らせど妙薬が届かないが、いつの間にか飢饉も病気もおさまった。



沖縄での十五夜

豊作や今後の無病息災を祈願する日。
旧暦の8月15日が「十五夜」(本州と同じ)
綱引きが行われる地域も！(代表的なのが糸満大綱引き)
その年の豊年祝いとして「八月踊り」を踊る地域も。



フチャギ



お餅が「月」
周りの小豆が「星」すなわち子孫を表す
⇒小豆が多いほうが子孫繁栄を意味し、良しとされる

上図左のような月見団子ではなく、右のフチャギをお供えする。



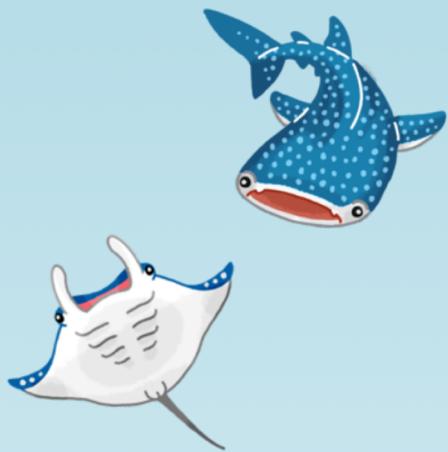
まずは神様に



それから仏壇に(ご先祖様に)供える

⇒沖縄特有の宗教観、琉球神道が絡んでくる、ややこしや

色々脱線しましたが…



いっぺーにふえーでーびたん！
(本当にありがとうございました！)

以上です。
ご清聴ありがとうございました！！

今回紹介した星や他の星にまつわる民話は他にもたくさんあるので興味があればぜひ調べてみてください。
次のスライドに載せる参考文献内にもたくさん紹介されています。

ぜひ感想ください…！



参考文献

- ・ 昔話にみる韓・日文化比較 崔 正玉

<https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2013/01/veritas07-11.pdf>

- ・ 沖縄の民間文芸にみる星・月・風 山里 純一

https://www.mgu.ac.jp/main/educations/library/publication/okinawa/no27/27_001.pdf

- ・ 八重山の暮らしと伝承～星・月・風～ 宮城 幸子

https://www.mgu.ac.jp/main/educations/library/publication/okinawa/no27/27_020.pdf

- ・ 公益財団法人メモリアル整備協会 メモリアルコラム

<https://oki-memorial.org/column>

- ・ Wikipedia